コロナにめげず 仲間をふやし 目標達成

狛江

給付金の相談から加入も 最終日に4％達成

【狛江・書記・牧岡善隆記】狛江支部は支部大会終了後、春の拡大に臨みました。

今回、コロナの影響で訪問行動を抑制されたので、主に電話かけと、ポスティングを中心にしました。拡大が事業所メインになっている事もあり、まず、厚労省通達で取りやめになっていた集団健診のお知らせをFAXやメールや電話で伝えがてら、拡大の対象者などの話をさせてもらいました。そんな地道な活動から徐々に対象者も増え、このご時世でも新入社員を入れている事業所もあり、成果が出てきました。事業所の紹介で持続化給付金などの相談も来ていたので、そこから拡大に発展する事例もありました。

統一行動も参加人数は少なかったですが、常に声かけを

狛江支部の青年部のメンバーはｗｅｂで拡大の打ち合わせを行ないました

豊島

SNSで情報発信 仲間の命と健康を守る

【豊島・書記・川合正人通信員】春の月間は、これまでに経験したことがない新型ウイルス感染との闘いでした。

4月に緊急事態宣言が出され、支部では「仲間の命と健康を守る」ことを最重点に、組合活動の自粛を余儀なくされました。

そういった状況の中でも支部・分会の役員が仲間を気にかけ、状況を把握し組織の防衛となり、困った仲間を置き去りにしない、組合を最後の砦とした「相談活動」へシフトチェンジしました。統一行動を1日も行なうことが出来なかったのは初めてのことでしたが、HPやLINE@、ツイッターでこの間のコロナ関連情報を発信し続けました。

組合費未・滞納に関する相談や群会議への不安なども寄せられました。そうした相談活動が組合への信頼に繋がり、組織内の大きなトラブルがなかった下支えもあり、結果的に組織拡大の成果に結び付きました。

新宿

貸付制度を新設 仲間の知恵と工夫

【新宿・書記・角谷美樹記】この春の拡大月間は、77人の到達で、本部の年間到達目標6・5％と合わせて、目標突破することができました。

この春の拡大月間は、「生活危機防衛、コロナで脱退する仲間を出さない様に、仲間の相談対応を！」を方針に、分会・群で電話やメール等での声かけ、仲間の状況聞き取り、組合に相談を、と提起しました。「組合として組合員に何かできないか？」と議論を重ね、5月8日「新宿支部（独自）緊急生活資金貸付制度」を決死の覚悟で創設し、運用開始しました。公的助成、貸付も紹介しながら全組合員向けダイレクトメールを5月13日に発送したところ、連日コロナ相談があり、対応に全力をあげています。

分会・群で、特に高齢の組合員・役員が、「人のつながり」から断たれ、体力低下と共に気力の減退で心配の声や、春の住宅デー全部中止だが、地域住民へ何かできないか、との声が上がっています。

「人と人のつながり」を大事に、常に集まる・集めることを長年続けてきた東京土建、次のステージで何ができるか、仲間の知恵と工夫で前進していきたいと、相談中です。

新宿支部

緊急生活資金貸付制度

貸付金額
10万円上限・無利息・無担保

条件
組合加入1年以上で基本的に組合費の滞納がない組合員

返済
国の定額給付金支給後、翌月から毎月1万円×10カ月

大田

井澤さんが新委員長 役員体制を強化

コロナ禍で支部大会も変則開催を余儀なくされました。5、6月で開催した3支部の内容をお知らせします。

2会場をリモートでつないで

【大田・書記・内田文明記】6月7日、支部会館4階会議室と5階会議室をリモートでつないで、大田支部第65回定期大会を開催しました。

昨年12月の大会準備委員会発足時には4月に開催する予定でしたが、緊急事態宣言の解除後、3密にならないように参加代議員の縮小化、大会時間の短縮など、大会参加者の新型コロナウイルス感染防止に重きを置いた大会としました。

大会議案を討議し、21年度から副委員長を4人体制にすることが決まりました。また、各職5期の任期制だったものを、10期（10年連続ではなく、通算して10期まで）とし、21年度から実施することを決めたので、22年度から副委員長4人、常任13人の役員体制を実施することを決めました。

その後、19年度決算、20年度予算を承認し、井澤典一委員長をはじめとする20年度支部役員を選出し、大会を閉会しました。

新4役は以下の通り。委員長・井澤典一。副委員長・菅原稔晴、平林諭司、高橋晃一。書記長・安藤信也。書記次長・川島環、平山裕也、川本肇。

代議員に事前に大会資料一式を郵送した上で項目別に採決用紙にて賛否を求め、質問については書面での提出を求めました。代議員から寄せられた合計11本の質問には、事前の電話、書面での答弁により、ご納得いただきました。

すべての議事が承認された後の役員改選では新しい書記長として野本書記が選ばれ、磯貝委員長からは「もう6月目前、今年は短期決戦となる。賃金引上げなど初心に返って取り組んでいく」とのあいさつがありました。

新4役は以下の通り。委員長・磯貝正昭。副委員長・奥村歳久、大谷隆司、伊関伸二、菅原学。書記長・野本章平。書記次長・吉川豊。

文京

賃金引き上げ等運動に 初心に返り取組む

【文京・書記・吉川豊通信員】5月27日夜間に、第67回支部定期大会が開催されました。今回の大会は、新型コロナウイルスの影響を鑑み、仲間の健康と命を守る立場から、感染リスクを少しでも回避するため、支部4役7人のみが参加しての短時間の変則開催となりました。

特殊事情の中でも、できるかぎり組合民主主義を守りながらの合意形成を図るため、委員長から小島中執に委員長が代わりました。小島委員長を先頭に要求実現のために奮闘していきます。

新4役は以下の通りです。委員長・小島明。副委員長・浅見英夫、藤川善清、福井寿英。書記長・出雲洋行。書記次長・長妻伸治、鈴木和幸。

墨田は小島 新委員長に

【墨田・書記・鈴木和幸記】5月8日開催予定だった墨田支部会館にて第62回定期大会を、5月22日に延期しての開催となりました。

墨田支部は今年度、浅見前

シニア友の会総会を開催

新会長に鵜澤さん

【本部・田崎遊記】第19回本部シニア友の会総会は、5月18日に新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から書面承認で開催しました。

方針提案では、全世代参加型の組合活動をめざし、組合運動と技術・技能の継承活動推進、コロナ禍により一層明らかとなった社会保障の切り捨てなど、地域の諸運動を積極的に取り組んでいくことを確認しました。また、7月の東京都知事選挙や今後予想される衆院解散・総選挙を支部・分会・群で大いに語り、要求と結び付け取り組むことを特別決議しました。

総会で、加藤行夫さんが会長を退任し、鵜澤文昭さんが新たに任につきました。全ブロックから選出された本部役員は以下の皆さんです。会長・鵜澤文昭（江東）。副会長・池内政一（足立）、新井進（豊島）、柄澤文雄（大田）、髙橋國男（渋谷）、市村政男（三鷹武蔵野）、小山隆一（府中国立）、小黒博行（日野）。事務局長・山岸郭志（小平東村山）

3支部で大会を行なう